

平成13年度「学生による授業評価」の中間報告

教務委員会

概 要

平成13年度の「学生による授業評価」の中間報告である。本学では平成10年度以降毎年「学生による授業評価」を実施してきている。全体的な授業評価を分析検討し、自己点検自己評価の指針とするために本報告を行った。

実施対象となった延べ科目数は、前期が103科目、後期が99科目で、分析対象となった延べ科目数は、前期が100科目、後期が97科目であった。質問項目は、前期が9項目、後期が10項目であった。「授業の良かった点・悪かった点」の2項目は記述式で、他の7項目あるいは8項目は4つの選択肢から回答を選ぶ選択式であった。分析の対象となったのは、選択式回答の質問項目である。全体的に見ると、前期はおおむね良好な評価がなされているが、後期は質問項目(2)「先生の熱意」と質問項目(3)「教材の適切使用」のふたつが前期に比べて著しく評価が下がっているところが今回の特徴であった。その他は概ね良好な評価を得ていると思われる。今後の最終的なまとめのためにさらなるデータの分析が必要なことと、質問項目(2)(3)の評価が低下したことについてさらに検討していく必要がある。

平成13年度「学生による授業評価」の中間報告

教務委員会

本学は、平成10年度より「学生による授業評価」を開始し、『平成10年度 育英短期大学「学生による授業評価」報告書』を育英短期大学教務委員会で発刊した。その目的は教育の質の向上を目指すこと、などを掲げて現在まで実施されてきたが、集計結果の分析はその後文章化されてこなかった。それぞれの教員に結果を返却することで、教員自身が授業研究・授業構成などを見直してその後の授業に役立てることを目指してきたからである。しかし、平成10年度の報告書から4年がたち、学生の構成も変化しなおかつ教員組織も大きくなってきたこともあり、今年度は授業評価報告書の冊子化を進めることとなった。そこで年度末に冊子としてまとめる前に、中間報告としてここに報告することとした。

I. 実施内容

1. 授業評価の実施状況

実施対象となった延べ科目数は、前期が103科目、後期が99科目である。このうち実際に授業評価を実施した延べ科目数は、前期が100科目、後期が97科目であった。

2. 質問項目

質問項目は前期9項目、後期10項目であった。内容は、以下の通りである。

- (1) 「先生の説明はわかりやすかった」
- (2) 「授業に対する先生の熱意を感じた」
- (3) 「先生は教科書や配布プリントを適切に使っていた」
- (4) 「この授業の内容はあなたの役に立つと思う」
- (5) 「質問したいとき先生は自由にたずねることができる雰囲気だった」
- (6) 「あなたの授業態度は良かった」
- (7) 「この授業は総合的に見て高く評価できる」

- (8)「前期授業評価であなたが指摘した問題は改善された」(通年科目のみ)
- (9)「この授業の最も良かった点について記述してください」
- (10)「この授業の改善する点について記述してください」

これらの質問項目のうち、(1)から(8)までは「あてはまる」「ややあてはまる」「ややあてはまらない」「あてはまらない」の4つの選択肢のどれかで答えるようになっている。

3. 実施方法

前期・後期とも最終授業時に、各教員が出席学生に対して質問用紙を配布し、無記名で解答するように指示し、学生が記載し終わった頃に質問用紙を回収するという方法で行った。質問項目への回答は、四択で答える問題と、自由に文章で記述する問題の2種類であった。

II. 集計結果の分析

前回の報告と同じく4段階評価の数値のみを分析の対象とした。4段階評価の「あてはまらない」を1点、「あまりあてはまらない」を2点、「ややあてはまる」を3点、「あてはまる」を4点として集計した。

分析対象の科目数は、全体で見ると、前期が100科目、後期が97科目であった。学科学年別に見ると、保育学科1年が前期26科目、後期24科目、保育学科2年が前期15科目、後期16科目であり、英語科1年が前期36科目、後期32科目、英語科2年

は前期25科目、後期27科目であった。この科目数は延べ数であり、実質はこれよりも少ない科目数で授業は行われている。

本報告は、学校全体、学科別、学年別、学科学年別の四つの観点から質問項目別に前期、後期の結果の比較検討を報告する。

1. 前期・後期別全体の結果

表1に全体の質問項目別平均点を示す。前期では、ほとんどの項目が3.3から3.6の間に分布しており、標準偏差も0.5未満と小さく、安定した評価点を得ているものと思われる。しかし、後期を見ると、質問項目の(2)「先生の熱意」と(3)「教材の適切使用」の平均点が、2.6と前期よりも1ポイント下がっている。その他の平均点も3.1から3.6と多少ばらつきが大きくなってきている。これは質問項目(2)「先生の熱意」(3)「教材の適切使用」の得点の低下からきているものと考えられ、「先生の熱意を感じられなくなってきた」ということ、「教科書や配布プリントが適切に使われていなかった」ということを学生たちが感じていたという結果であろう。このことは、項目(7)の「この授業は総合的に見て高く評価できる」の平均点が0.1ポイント上がっているが、標準偏差が0.15ポイント上がっていることから説明がつくであろう。つまり、学生間のばらつきが大きくなっているということで、高く評価している学生もいれば低く評価している学生もいるということである。全体的に見れば、なかなか高い評価をもらっているといってもよいであろう。

表1 全体の質問項目別平均点

| 質 問 項 目 | 前 期 | | 後 期 | |
|-------------------------------|-----|------|-----|------|
| | 平均 | SD | 平均 | SD |
| (1)先生の説明はわかりやすかった | 3.4 | 0.43 | 3.3 | 0.41 |
| (2)授業に対する先生の熱意を感じた | 3.6 | 0.30 | 2.6 | 0.91 |
| (3)先生は教科書や配布プリントなどを適切に使っていた | 3.6 | 0.36 | 2.6 | 0.66 |
| (4)この授業の内容はあなたの役に立つと思う | 3.5 | 0.42 | 3.4 | 0.38 |
| (5)質問したいとき先生は自由にたずねることができる雰囲気 | 3.3 | 0.48 | 3.3 | 0.63 |
| (6)あなたの授業態度は良かった | 3.4 | 0.27 | 3.3 | 0.48 |
| (7)この授業は総合的に見て高く評価できる | 3.5 | 0.35 | 3.6 | 0.50 |
| (8)前期授業評価であなたが指摘した問題は改善された | — | — | 3.1 | 0.77 |

2. 学科別の結果

表2に学科別の質問項目別平均点を示す。前期では、英語科は3.2から3.6までの範囲に分布しており、保育学科は3.4から3.7の範囲に分布している。英語科と保育学科の平均点の差は、最大0.2あり、質問項目(4)(5)(6)(7)の四項目で、保育学科の方が高い評価点となっている。これは英語科の学生は、「先生の説明はわかりやすい」、「先生の熱意を感じている」、「教材使用も適切である」と感じているにもかかわらず、保育学科の学生に比べると「内容が役に立たない」、「先生に自由に質問できない」、「授業態度が悪い」、「授業を高く評価していない」というふうに感じているようである。

後期を見ると、全体のところでも見たように、「先生の熱意」と「教材の適切使用」の点が両学科とも低下しており、英語科では「先生の熱意」が1.1ポイント、「教材の適切使用」が1.0ポイント、保育学科では「先生の熱意」「教材の適切使用」いずれも0.9ポイントの低下である。これは全体の結果のところでも述べた通りであるが、その傾向が保育学科よりも英語科のほうが少し高いといえるであろう。前期と同様に平均点の差が0.2ポイント以上ある項目をみると、質問項目(4)「内容が役に立つ」(0.3差)と(7)「総合的に評価できる」の二つであった。これも前期と同様の結果であるといえる。

表2 学科別の質問項目別平均点

| 質問項目 | 前期 | | | | 後期 | | | |
|-------------------------------|-----|------|-----|------|-----|------|-----|------|
| | 英語 | | 保育 | | 英語 | | 保育 | |
| | 平均 | SD | 平均 | SD | 平均 | SD | 平均 | SD |
| (1)先生の説明はわかりやすかった | 3.4 | 0.39 | 3.4 | 0.49 | 3.3 | 0.41 | 3.3 | 0.41 |
| (2)授業に対する先生の熱意を感じた | 3.6 | 0.29 | 3.7 | 0.30 | 2.5 | 1.03 | 2.8 | 0.65 |
| (3)先生は教科書や配布プリントなどを適切に使っていた | 3.6 | 0.36 | 3.6 | 0.38 | 2.6 | 0.75 | 2.7 | 0.44 |
| (4)この授業の内容はあなたの役に立つと思う | 3.4 | 0.43 | 3.6 | 0.37 | 3.3 | 0.37 | 3.6 | 0.35 |
| (5)質問したいとき先生は自由にたずねることができる雰囲気 | 3.2 | 0.52 | 3.4 | 0.41 | 3.3 | 0.65 | 3.4 | 0.62 |
| (6)あなたの授業態度は良かった | 3.3 | 0.29 | 3.5 | 0.22 | 3.3 | 0.54 | 3.4 | 0.34 |
| (7)この授業は総合的に見て高く評価できる | 3.4 | 0.36 | 3.6 | 0.34 | 3.5 | 0.55 | 3.7 | 0.41 |
| (8)前期授業評価であなたが指摘した問題は改善された | — | — | — | — | 3.1 | 0.72 | 3.2 | 0.82 |

3. 学年別の結果

表3に学年別の質問項目別平均点を示す。前期において、1年生は3.2から3.6の間で評価しており、2年生は3.3から3.7の間で評価している。後期において、1年生は2.5から3.5の間で、2年生は2.7から3.7の間で評価している。全体的に見て1年生の方が、2年生よりも評価点が低くなって

いる。この原因として考えられることとして、一つは1年生が「授業評価」ということになっていないためと、もうひとつは2年生ほど教員との心理的な距離が近くないため、さらには教員の授業への姿勢が1年生と2年生とで異なっているということがあげられるが、これらについてはさらなる分析検討が必要であろう。

表3 学年別の質問項目別平均値

| 質 問 項 目 | 前 期 | | | | 後 期 | | | |
|-------------------------------|-----|------|-----|------|-----|------|-----|------|
| | 1 年 | | 2 年 | | 1 年 | | 2 年 | |
| | 平均 | SD | 平均 | SD | 平均 | SD | 平均 | SD |
| (1)先生の説明はわかりやすかった | 3.4 | 0.44 | 3.4 | 0.41 | 3.3 | 0.45 | 3.4 | 0.33 |
| (2)授業に対する先生の熱意を感じた | 3.6 | 0.28 | 3.7 | 0.31 | 2.5 | 1.05 | 2.8 | 0.63 |
| (3)先生は教科書や配布プリントなどを適切に使っていた | 3.5 | 0.39 | 3.7 | 0.30 | 2.6 | 0.77 | 2.7 | 0.47 |
| (4)この授業の内容はあなたの役に立つと思う | 3.5 | 0.40 | 3.5 | 0.44 | 3.3 | 0.38 | 3.6 | 0.33 |
| (5)質問したいとき先生は自由にたずねることができる雰囲気 | 3.2 | 0.48 | 3.3 | 0.48 | 3.2 | 0.63 | 3.5 | 0.60 |
| (6)あなたの授業態度は良かった | 3.3 | 0.24 | 3.4 | 0.30 | 3.3 | 0.52 | 3.4 | 0.44 |
| (7)この授業は総合的に見て高く評価できる | 3.5 | 0.34 | 3.5 | 0.37 | 3.5 | 0.56 | 3.7 | 0.39 |
| (8)前期授業評価であなたが指摘した問題は改善された | — | — | — | — | 3.1 | 0.73 | 3.2 | 0.80 |

4. 学科学年別の結果

1) 英語科 表4に英語科の学年別の質問項目別平均値を示す。前期において、1年生は3.1から3.6の間で、2年生は3.3から3.7の間で評価をしている。後期においては、1年生は2.2から3.6の間で、2年生は2.7から3.6の間で評価をしている。それぞれの学年を見てみても、全体的な傾向は同じであるが、後期1年生で質問項目(2)「先生の

熱意」が他の値に比べて極端に低くなっていることが問題としてあげられるであろう。前期の評価が3.6だったものが後期には2.2まで1.4ポイントも減少することは問題であるといえよう。科目のすべてではないにしろ、英語科の科目は通年の科目が多いので、今後の検討課題として取り上げる必要があるであろう。

表4 英語科学年別の質問項目別平均点

| 質 問 項 目 | 前 期 | | | | 後 期 | | | |
|-------------------------------|-----|------|-----|------|-----|------|-----|------|
| | 1 年 | | 2 年 | | 1 年 | | 2 年 | |
| | 平均 | SD | 平均 | SD | 平均 | SD | 平均 | SD |
| (1)先生の説明はわかりやすかった | 3.4 | 0.34 | 3.4 | 0.44 | 3.4 | 0.44 | 3.4 | 0.35 |
| (2)授業に対する先生の熱意を感じた | 3.6 | 0.25 | 3.6 | 0.33 | 2.2 | 1.28 | 2.8 | 0.57 |
| (3)先生は教科書や配布プリントなどを適切に使っていた | 3.5 | 0.37 | 3.7 | 0.32 | 2.5 | 0.97 | 2.7 | 0.57 |
| (4)この授業の内容はあなたの役に立つと思う | 3.5 | 0.37 | 3.4 | 0.50 | 3.4 | 0.41 | 3.5 | 0.30 |
| (5)質問したいとき先生は自由にたずねることができる雰囲気 | 3.1 | 0.48 | 3.3 | 0.54 | 3.4 | 0.61 | 3.3 | 0.67 |
| (6)あなたの授業態度は良かった | 3.3 | 0.25 | 3.4 | 0.32 | 3.5 | 0.52 | 3.3 | 0.49 |
| (7)この授業は総合的に見て高く評価できる | 3.4 | 0.30 | 3.5 | 0.42 | 3.6 | 0.58 | 3.6 | 0.40 |
| (8)前期授業評価であなたが指摘した問題は改善された | — | — | — | — | 3.1 | 0.91 | 3.0 | 0.95 |

2) 保育学科 表5に保育学科の学年別の質問項目別平均値を示す。前期において、1年生は3.4から3.7、2年生は3.4から3.8の間で評価している。後期においては、1年生が2.8から3.4、2年生が2.7から3.8の間で評価している。前期の評価はすべての質問項目が同じような点数で安定的に見えるが、後期の評価は英語科と同じように全体的に低下している。1年生2年生ともに特に質問

項目(2)「先生の熱意」と(3)「教材の適切使用」での評価が低下している。1年生は全体的に評価が厳しくなっているともいえるであろう。このことに関しては、英語科のところでも述べたようなことが原因であると考えられるが、保育学科の授業は通年の科目が少なく、半期ものの授業が多いため一概に言えないが、この点については、今後の検討が必要である。

表5 保育学科学年別の質問項目別平均点

| 質 問 項 目 | 前 期 | | | | 後 期 | | | |
|-------------------------------|-----|------|-----|------|-----|------|-----|------|
| | 1 年 | | 2 年 | | 1 年 | | 2 年 | |
| | 平均 | SD | 平均 | SD | 平均 | SD | 平均 | SD |
| (1)先生の説明はわかりやすかった | 3.4 | 0.55 | 3.5 | 0.35 | 3.2 | 0.42 | 3.5 | 0.31 |
| (2)授業に対する先生の熱意を感じた | 3.7 | 0.32 | 3.8 | 0.25 | 2.9 | 0.10 | 2.7 | 0.74 |
| (3)先生は教科書や配布プリントなどを適切に使っていた | 3.5 | 0.42 | 3.7 | 0.29 | 2.8 | 0.19 | 2.7 | 0.22 |
| (4)この授業の内容はあなたの役に立つと思う | 3.6 | 0.43 | 3.7 | 0.25 | 3.2 | 0.30 | 3.7 | 0.32 |
| (5)質問したいとき先生は自由にたずねることができる雰囲気 | 3.4 | 0.43 | 3.4 | 0.38 | 3.0 | 0.64 | 3.7 | 0.40 |
| (6)あなたの授業態度は良かった | 3.4 | 0.20 | 3.5 | 0.24 | 3.0 | 0.39 | 3.5 | 0.33 |
| (7)この授業は総合的に見て高く評価できる | 3.5 | 0.39 | 3.6 | 0.23 | 3.4 | 0.50 | 3.8 | 0.37 |
| (8)前期授業評価であなたが指摘した問題は改善された | — | — | — | — | 3.1 | 0.36 | 3.5 | 0.28 |

III. 結論

平成10年度の結果との詳細な比較ができていないので、はっきりとは言えないが、平成13年度の方が、評価が厳しいように思われる。特に前期と後期との違いがはっきりしているのは、質問項目

(2)「先生の熱意」と(3)「教材の適切使用」の二つであろう。この二つの項目については、前述したように、今後の授業改革を進めていく上での問題点として検討していく必要がある。

(2002年9月30日 受理)

An Interim Report of “the Student Class Evaluation” of 2001.

Academic Affairs Committee

Abstract

This is an interim report on the results of “the student class evaluation” of 2001. Our college has been implementing an evaluation, twice a year, since 1998. The purpose of this report is to analyze the overall class evaluations and to look at future guidelines for self-inspection and self-evaluation.

There were 103 classes evaluated in the first term and 99 in the second term. Of these classes, 100 from the first term and 97 from the second term were analyzed. There were 9 questions on the first term evaluation and 10 on the second one. Two questions referred to “good points about the class” and “bad points about the class” and students were asked to answer in written form. The remaining 7 or 8 questions were questions where students chose a number from 1 to 4. This interim report looks at the numbers that the students chose on the evaluation.

On the whole, the results for the evaluation for the first term were mostly good but with question number 2 regarding teacher’s enthusiasm and question number 3 regarding making the best use of teaching materials, there was a drop in the numbers on the evaluation in the second term. This was a noticeable conclusion from this investigation. The other questions returned similar results for both the first and second term.

In conclusion, more analysis of the data and more consideration about low evaluation about question 2 and 3 are needed for the final report.